

天球儀 〈読物〉	小田 稔 先生ご逝去	小川原 嘉明	234
	ハワイ島ヒロにおける ハワイ観測所の広報普及活動	布施 哲 治	240
ASTRO NEWS	X線天文衛星「あすか」の8年間の運用と観測の足跡	長 瀬 文 昭	244
シリーズ	《海外研究室事情(18)》 Max-Planck-Institut fuer Radioastronomie (MPIfR), Infrared Interferometry Group マックスプランク電波天文学研究所 赤外干渉計グループ	大 仲 圭 一	250
書評	宇宙スペクトル博物館〈電波編〉 宇宙が奏でるハーモニー	土 橋 一 仁	252
雑報	国際シンポジウム「X線天文学の新世紀」 「夏の学校」のお知らせ 日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書 「第2回 ジュニアセッション」報告 天文教育フォーラム「課外活動における天文教育」	国 枝 秀 世 小 山 博 子 辻 本 匡 弘 山 岡 均	253 254 255 256 258
年会	日本天文学会2001年秋季年会のお知らせ 「第3回 ジュニアセッション」のお知らせ		259 265
月報だより			267

[表 紙 説 明]

本年3月2日、「あすか」衛星は大気圏に再突入し8年にわたる観測を終了することとなった。「あすか」は、わが国4番目のX線天文衛星であり、4 keVを越える硬X線領域における撮像観測をはじめて可能にしたX線反射望遠鏡を搭載し、低エネルギー領域をカバーし高エネルギー分解能を持つX線CCDカメラ、高エネルギー領域をカバーし広視野を持つガス蛍光比例計数管とを焦点面検出器に搭載した画期的な衛星であった。「あすか」は星生成領域から銀河団にいたる様々なスケールの天体を観測し、天体活動の謎に迫るとともに、宇宙の進化に対しても画期的な成果をあげ続けている。現在、これらの成果を踏まえ、チャンドラ衛星、ニュートン衛星において新たな謎の探求が行なわれるとともに、日本の次期X線天文衛星Astro-E IIの準備が着実に進められている。

(ASTRO NEWS参照)